

山陰仏社会報

Sō-Sō

[壮創]

第22号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第22号

【編集・発行】 山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1 (本願寺山陰教堂内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351

2024(令和6)年度 山陰教区仏教壮年会連盟

総会・研修会報告

松江組 勝願寺仏教青壮年会 祖田 純一

6月8日(土)に山陰教区仏教壮年会連盟総会、研修会が開催されましたのでご報告いたします。

総会開始時間は本年も午後からの開催となりました。山陰教区各寺院よりお集まりいただき、会場は例年通り松江の山陰教堂教化センター研修室にて76名の参加で滞りなく行われました。合掌、礼拝、おつとめ「重誓偈」の後、山陰教区仏教壮年会連盟会長 農利信氏、山陰教区仏教壮年会連盟理事長 武田英教氏のご挨拶を賜り、議長任命後、第1号議案 2023(令和5)年度の事業報告及び第2号議案・決算報告、会計監査報告までを一括上程され、全員賛成で承認。次に、第3号議案 2024(令和6)年度の事業計画(案)及び第4号議案 予算(案)の承認について一括上程され、全員賛成で承認されました。

休憩をはさんだ後、研修会では、宗派仏教壮年会連盟講師の北山祐章氏(備後教区 沼隈南組 光源寺 住職)をお迎えし「私のお寺 いっしょに仏壮(今、仏教壮年会のやくわり)」とい

うテーマで講義をしていただきました。まずは、仏教壮年会活動の目的について、「住職に届いた一通の手紙から」を紹介され「領いてくれる友(朋)」がいる」会についてお話いただき、仏教壮年会活動の現状について、面白く冗談を交えながらお話され、レクリエーション活動やバザー、お寺の環境整備活動などさまざまな活動で会員にお寺にかかわってもらうことを紹介されました。

どの団体も高齢化や会員数の減少と課題を抱えています。仏壮会員一人ひとりがお寺とかかわり、一回でも多くお寺に参拝し手を合わせてお念仏を称えること、そして仏壮が、
・「変えなければならぬこと」他団体との連携・各々の領域(年齢・性差)
・「変えてはならないこと」活動の場があること

を明確にして、会員の皆さんに共有することが大切である、と説明されました。大変短い時間ではありましたが、今後の壮年会活動に実のある講義でした。ありがとうございました。

第4連区 仏教壮年会セミナーの ご報告

山陰教区仏教壮年会連盟 理事長
武田 英教

「仏教壮年会セミナー」は、仏教壮年会連盟の重点目標「寺院仏壮の結成率50%」に向け、連区内で担当教区を決め、「仏壮の組織拡大」を目的に取り組まれてきました。

しかし、休退会が新規結成を上回る中で、昨年より、魅力的な活動が組織拡大につながるの考え方から「活動の充実」をセミナーの目的に加え、セミナーの実施にあつては「組織拡大」または「組織の拡充」を選択し、担当教区の独自性を活かした方法・内容により開催することとされています。

今年度、第4連区では山口教区が担当教区となり、9月7日(土) 山口市徳地岸見の大見山 超勝寺、岸見の岩風呂に於いて、教区の独自性を活かした参加・体験型のセミナーとして「組織の拡充」に視点を置いた仏教壮年会セミナーが開催されました。

超勝寺での開会行事や活動事例紹介のあと石風呂・テントサウナの説明・体験、講話、夕方はホテルに戻り懇親会という流れで進みました。

活動事例紹介では、山口教区 小月組 明圓寺の仏教壮年会 田村茂善

さんより、小月組実践運動推進協議会の取組みとして、子ども食堂の学習会の様子や食品提供で子ども食堂を支援した活動事例の報告をいただきました。

開会行事・活動事例報告の後、300メートルほど移動し、岸見石風呂保存会の皆様のご協力のもと石風呂体験と、「ヴィエハッタヴァ」の河上敦さんのお世話によりテントサウナを体験させていただきました。

4〜6名で石風呂やテントサウナに入り、単位会や組での活動状況や課題、これからの仏教壮年会活動の在り方などについて語り合い、心と体を整えつつ、朋友の輪を拡げることができました。

講話では、仏教壮年会連盟講師北山祐章師(備後教区沼隈南組光源寺住職)より、仏教壮年会活動について、全国的に人口が減少し厳しい状況にあること・組連盟へ直接加入されている事例があること・面白い活動や楽しい活動を取り入れる必要性・他の教化団体との協力体制の検討・お寺を中心としながらも活動の主体は住職ではなく壮年会であるべきことなど、今後の活動に向けての課題を整理していただきました。

岸見の石風呂について記述した「石風呂の記」によれば、1186年(文治2年)4月、東大寺再建の用材搬出の入夫の医療目的に俊乗房重源が

作った熱気浴の施設とされています。

会所をお引き受けいただいた、超勝寺の大来尚順住職も岸見石風呂保存会の一員として地域の中で活動されているとのことなどお聞かせくださいました。

今回、山口教区仏教壮年会連盟様の企画により開催地域の特色を生かしたプログラムを組んでいただきました。先人から受け継がれ地域に根づく文化に触れる体験を通し、これからの仏教壮年会活動の在り方を語り合う貴重な時間となりました。

鳥取ブロック研修会に参加して

鳥取因幡組 願正寺仏教壮年会

角田 完

令和6年7月14日に、明治生まれの女性作家尾崎翠にご縁がある岩美町岩井温泉に所在する西法寺にてこの研修が行われ、私は開会式での仏教壮年会連盟綱領の唱和を務めました。

講話は、養源寺住職 山名立洋師の講演「お寺の持つ可能性」。日本の30年後の世代分布などの統計をもとに説明を受けて、次世代にお寺や家をどう残していくのかを考えてみました。

ほとんどの方は、もう我々は生きていないといった雰囲気ですが、私たちが今やらなければ、寺だけでなく地域

社会や家の存続も危ういと感じました。

葬儀についても、家族葬、直葬、火葬のみといった地域や寺を離れた葬儀が多くなり、樹木葬などを希望する人も多くなっていると聞きました。

その後は、各寺の壮年会活動を聞かせていただき、私の寺で何ができるのかを考える良い研修となりました。



出雲ブロック研修会に参加して

松江組 明宗寺仏教壮年会(間真会)

福原 一字

(釋深法)

2024(令和6)年度 山陰教区 仏教壮年会連盟出雲ブロック研修会

が10月20日(日)に、雲南市木次町チエリヴァホールを会場に27カ寺71名の会員参加のもとで開催されました。

開会式に続き勤行、仏教壮年会綱領の唱和の後、晨利信 山陰教区仏教壮年会連盟会長に「今日は、今、仏教壮年の仲間を作るには何が出来るか? 何が必要か? ということで少しでも流れを変えてゆく、少しでもお念仏のみ教えを次の世代に残してゆくきっかけになればと思い、この後お話をさせていただくことでございます」との開会のご挨拶をいただきました。

講話の序段

何が出来るか、何が必要か 人があつまらなければどの組織も成り立ちません、仲間を作つてゆくことが大事、先ほど唱和した綱領の中に「...心豊かに生きる社会の実現をめざします」、この社会の実現の前には「自他ともに」の言葉が入るのではないでしようか、自分さえよければいいのでなく自分の周りの人も含めともにお念仏を喜ぶことが心豊かに生きる社会の実現になるのではと思います。

本日のテーマ

「今、仏教壮年の仲間を作るには何が出来るか? 何が必要か?」

今まで、お寺を支えて(護持)くださっている方の年代は60代・70代の方が中心でありましよう、お寺を支える中でコミュニケーション(グループ)の数がいずれの教化団体でも減少し、また、

それぞれの団体はそれぞれの活動を行っているのが現状です、提案として

〈例一〉

滋賀県のあるお寺では、分かれて活動していた団体を廃止し一つの団体(門信徒会)に纏めた結果、目的であるご法義相続・護持するにはそれぞれの教化団体を一旦解き、一緒になって例会を行うことでお寺に集まる人の数が増えたという報告を聞きました。

〈例二〉

門信徒の皆様から、積極的にご住職に声かけを行う、我々はご門徒さまの顔が見えませんが、したがって住職から門信徒の皆様へ声かけ(勧誘)を行っています。



今の私たちがどのようなふうになっているのかを考えた時、私たちは限られた時間の中で生きています、何時死ぬか解らんです、お念仏の教えの中では私たちは凡夫とよばれています、煩惱から離れることができないこの私たちがどのように生きていくかが問われていますのが浄土真宗のみ教えであります、この娑婆の世界の縁が尽きたら仏さまの国に生まれ(往相)、そして姿は見えないけれど娑婆の世界に戻りお念仏の手を合わせる人の中に還ってくる(還相)、浄土真宗の基本中の基本の教えです。

北畠先生とお話ができる機会がありました、その北畠先生は「わたしはこの歳まで生きてまさかお坊さんになるとは夢にも思いませんでした」と、北畠先生は当時学生(龍谷大)であり、「学校へ行ったら国の為に戦争へ行つて、そこで亡くなるもの・戦争に行つて死ぬのだ」と思っていた、お兄さんは実際に戦争で亡くなられております、終戦を迎えると自由に仏教を学び住職(布教使)となられました、先生はそのとき「皆さんこうして一緒に話してできることは若いときには考えられなかった」と、教えてくださいました。・・・(以前、私のお寺で法話をいただきました北畠先生懐かしいです)

お念仏の流れを継いでゆく、私たちが今出来ることとして(提案)

皆さま方のご家族・ご親族の方がご自宅にお帰りになられた時(お盆・正月・大型連休などで帰省)に「せっかく帰って来たんで、お礼をしようか」と呼びかけて、皆さま方が一緒に荘厳されたお仏壇の前に座り手を合わせ一緒に「なんまんだぶつなんまんだぶつ」とお参りする姿を子・孫に見せる、その姿を相続していただきたいことでもあります、この先私がお浄土に往かれた時、子や孫が思い出すんです「お父さんや・お母さん(おじいちゃんや・おばあちゃん)は何時もお寺にお参りされていたな、仏壇の前でお経をあげられていたな」と相続されます、「なぜお寺にお参りしていたのだろう」と考えていただくようになると、お仏壇が今後の次の世代・その次の世代へと繋がってゆくのではと、人がどんどん都市部に集中し地方の人口が減少する中、私たちが今出来る事として重要なのではないかと思います、私たちは凡夫と云う自分中心の考えから離れることが出来ない、それを気付かせていただくのは阿弥陀さまの教えを通して・阿弥陀さまの救いを明らかにされた親鸞聖人の教えを通してこの私に明らかにされました。毎朝鏡に向かわれていると思いますが、鏡に映る姿の中身はどうでしょう、朝起きて「眠れぬ夜を嘆く者は多いが目覚めた朝に感謝する者は少ない」という言葉があります、今日も目が覚めた「ありがたいことじゃ」と思っ

て目が覚めた方はおられますか?、朝目が覚めて「ああ、今日も命が長らえられた」そのような人生を私たちは共に歩ませていただきたいと思ひます。

大田の窪田先生は朝起きてトイレにゆきオシッコがでたことは「よろこばにゃーいけん」「ありがたいと思わにゃいけん」とおっしゃいました、感謝する心というのが大事な姿だと思います。

最後に妙好人の浅原才市同行のことを紹介して終わりたいと思います。

「聞いてたすかるじゃない たすけてあるをいただくばかり」・・・私がどうこうではなくてすべて阿弥陀さまの一人働きであります、その教えをいただく私どもは「唯々手を合わせお念仏申す日暮し」「唯仏是真」と、自分の出来なかつた人生を嘆く人生ではなく今ある人生を「ありがたい もつたない」と、日々感謝「報恩感謝」の姿でおすごしいただきたいと思ひます。

休憩もなく長時間のご講義、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症により多数の人が一堂に集まる機会を自粛していましたが、今はそれなりの感染対策が身に付き、久しぶりにお会いする方々との再会ができありがたく、また、私たちが心の中にくすぶっている会員の勧誘に非常に参考になるうれしい研修会でした。今後もぜひ絆の深まる研修会が開催されますようよろしく願ひいたします。

合掌

石見ブロック研修会に 参加して

浜田組 眞光寺仏教壮年会

長田 正司

2024(令和6)年度山陰教区仏教壮年会連盟石見ブロック研修会が2月11日(火)に、いわみーる内の研修室を会場に37名の会員参加で開催されました。

ご講師に石橋純誓氏をお迎えし『お念仏と私の生き方―非戦平和を願って―』と題して講義を頂きました。広島に生まれ育ち、現在も生活されている呉市を取り巻く環境(防衛拠点計画)から湧き出てこられる平和への想い、3人の子を持つ母親としての非戦への願いを熱弁され、非戦平和について改めて考える機会になりました。

確かに、私達の全ての生活の営みや自然環境との共存は『平和』という大きな礎があればこそであり、日本国憲法9条は先人達が築き上げた世界に誇る大いなる遺産です。しかしながら、昨今の世界情勢に目を向けると毎日どこかの国や地域で戦争が繰り返され、悲惨な状況が連日報道されており、近年のITの発達やSNSの普及により、より詳細により鮮明に現地レベルでの情報を得ることが可能になりました。我々日本人も決して対岸の火事ではなく「世界の中の日本」という意識を持たねばなりません。直接的な武器の輸出入をしなくとも、部品や資源があれば現地で武器を製造できてしまうのが実情です。エネルギーも必ずしも平和利用のために使われるとは限りません。食料にしても兵糧になるかもしれません。他国に攻め込まれたり外国の戦争に巻き込まれる可能性は常にあるのです。

世界平和を願う上で、世界史や宗教(特にユダヤ・キリスト・イスラム)の歴史・諸外国の脅威に関して勉強し、考え方を更新しなければと強く思いました。

私の思想はご講師の言われるところの念仏者として失格なのかもしれませんが、私なりに信念を持ち本願に身を任せ、仏法活動に励む所存です。



シリーズ 仏法紹介⑩

松江組 西宗寺仏教壮年会 山崎 博

西宗寺仏教壮年会の主な活動は、春の観桜会、夏の夕涼みの会と念仏奉仕団の企画運営です。

観桜会は、毎年3月末から4月初頭に開催しています。西宗寺の境内には、多くの桜があり、開花の時期には夜間にライトアップされています。観桜会では、満開の桜のもとで、門信徒のみならず、地域の住民の方々も参加され、楽しい時間を共に過ごします。

念仏奉仕団は毎年6月に実施しています。新型コロナウイルス感染症の關係で3年ほど休止していましたが、昨年から再開し今年で7回目となります。ご本山でのお参りや奉仕活動の後、京都近辺を観光して帰ります。まる2日間を

共に過ごすことで、知らない人たちとも打ち解けることができます。

夕涼みの会は、毎年8月下旬から9月上旬に開催しています。観桜会と同様に、本堂前で一献傾けながら多くの方々と語り合います。

これからも、これらの行事を継続していくとともに、より多くの方々が、西宗寺に集っていただけるように働きかけていきたいと考えています。



あとがき

今年度から、新たに山陰教区仏教壮年会連盟の事務を担当させていただくことになりました。

これまで連盟を支えてこられた方々の思いを受け継ぎながら、微力ながらも尽力していきたいと思っております。どうぞよろしく願っています。

さて、現在、当連盟が抱える大きな課題のひとつが、会員数の減少です。少子化や地域社会の変化など、さまざまな要因が重なり、活動の継続が難しくなっている現実があります。

しかし、そのような中でも、仏教壮年会が果たす役割は決して小さくありません。むしろ今だからこそ、壮年世代が中心となり、地域や寺院をつなぐ架け橋となることが求められているのではないのでしょうか。

この現状を受け止め、新たな仲間づくりや情報発信の工夫を重ねながら、一步一步できることから取り組んでまいります。この「壮創」がその一助となれば幸いです。今後ともご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

事務局 黒河敬生
籠 純吾